

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

- ・第4四半期の来館者数は、2,445人で、前年度同期来館者数(3,157人)と比べ、712人、約22.6%の減であった。令和3年1月8日から3月21日の期間は緊急事態措置が実施されたことで、収容率を50%削減したこともあり、来館者数が減少したと考えられる。月別に分析すると、709人(1月)、881人(2月)、855人(3月)と、どの月も1,000人に満たない入場者となり、緊急事態措置が影響していることが読み取れる結果となった。(前年度の3月は臨時休館であったが、そのことを踏まえても入場者は減少となっている。)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・通常の設備保守・点検等は適切に実施されている。
- ・館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・旧和辻邸の維持管理のため、玄関障子張替え作業を実施した。

● 資料等の維持管理

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・展示事業は、3月中旬まで、日本バレエ発祥の地・鎌倉で、日本におけるバレエ隆盛の礎を築いたパヴロバ姉妹の足跡を辿り、併せてバレエ映画の魅力を紹介企画を実施した。また、3月19日から始まった通常展「日本映画名優(バイプレイヤーズ) 列伝」では、1950～70年代を中心に、日本映画の黄金時代を支えた名優(=バイプレイヤー)たちの仕事ぶりを紹介する。昨今テレビなどでも『バイプレイヤー』を取り上げ、注目度を集めていることから、引き続きSNSなども用いた効果的な周知・宣伝に努めて欲しい。また、昨年実施した企画展「映画ポスターの革命～ATG(アート・シアター・ギルド)の挑戦」のアンコール展示も行った。
- ・上映事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1月13日から3月20日まで座席数を半分の25席としていたが、振替上映にて実施した「砂の器」は各回満席になるなど市民の方の注目度も高いことが分かることから、今後もアンケート結果なども踏まえ、市民のニーズに合った作品の上映を期待していきたい。また、市民の方がより作品に対する理解を深められる重要な機会である展示解説や上映後の解説は、参加者から好評だった。

● 調査、研究及び情報提供

- ・次期展示事業のための資料調査、資料下見等を行っている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための情報資料室の閉鎖に伴い、映画資料や関連図書等の情報提供は行わなかった。

● 広報及び宣伝等

- ・市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターや広告パネルによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて広報及び宣伝等に努めた。
- ・企画展関係者へのチラシ送付やSNSの活用、取材対応など、更なる集客に向けた記念館の宣伝強化に努めた。

● その他の事業

- ・「はじめてのシナリオ教室」(全3回)を実施し、市民等がシナリオの構成について学ぶことで、映画に対する興味を深める機会を設けた。
- ・企画展に関連したテーマで開催されたトークイベントは、新型コロナウイルス感染症対策のため座席数減での実施となったが、全席満席となり、大変好評であった。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
1月分:2月12日、2月分:3月12日、3月分:4月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・ 令和3年3月19日の展示室内で撮影をした方に警備員が注意したところ、「撮影禁止」の表示が見えにくいとの意見あり→「ごあいさつ」パネル下に撮影禁止パネルを移動して対応した。

● その他

- ・ キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- ・ 全国映画資料アーカイブサミット2021や映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ等に積極的に参加し、他施設との円滑な連絡相談体制の構築を図るとともに記念館スタッフの能力向上に努めている。
- ・ 企画展「バリエ映画の世界」では、子ども向け展示解説を記載したパンフレットを配布するなど、子どもの興味関心を広げる取り組みを行っている。

5 全体評価

- ・ 令和3年1月8日から3月21日の期間は緊急事態措置が発令のため、座席数の削減などを実施したことから、今期の展示事業及び上映事業は、全ての月で1,000人未満の観覧者数となった。緊急事態宣が明けても、コロナ禍においては、観覧者数の獲得が厳しい状況が続くことが見込まれるため、動画配信などのオンラインを活用した事業実施について検討を続けて欲しい。
- ・ 記念館のホームページをリニューアルしたことで、より親しみやすいものとなっているため、今後もSNSを利用した情報発信を行い、若年層の獲得を含め、より多くの市民等に記念館について周知できるよう、努めて欲しい。
- ・ 施設の維持管理などの業務に関しては、日常点検をはじめ、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和2年度第4四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第4四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%